

蒲生 恵美 食品・農産物の安全性に関する
リスクコミュニケーションはどのよう
に行うべきか～残留農薬問題を事例に
～, 米国大使館・農産物の安全性に関す
るセミナー(2009年9月、福岡)

蒲生 恵美 食品・農産物の安全性に関する
リスクコミュニケーションはどのよう
に行うべきか～残留農薬問題を事例に
～, 米国大使館・農産物の安全性に関す
るセミナー(2009年9月、札幌)

蒲生 恵美 遺伝子組み換え食品の安全・安
心, 跡見学園女子大学出前講座(2009
年11月、東京)

蒲生 恵美 食の安全・安心に向けて～食を
めぐる情報の読みとき方(エコナ事例
に学ぶ)～, さいたまコープ学習会
(2009年11月、埼玉)

蒲生 恵美 健やかな食生活を送るために,
深谷市くらしの会講演会(2009年12月、
埼玉)

蒲生 恵美 食の安全 その判断は正しい
か? 埼玉県食の安全人間地域推進評議
会研修会(2010年1月)

H 知的財産権の出願・登録状況
なし

平成 21-22 年度食品の安心・安全確保推進研究事業

実験心理学によるリスク情報提供の検討

研究分担者 和田有史 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
主任研究員

研究協力者 曲山幸男, 宮ノ下明大, 今村太郎, 木村敦, 増田 知尋

研究要旨

チョコレートや米に昆虫が混入していたと仮定した場合の支払い意志値を分析した結果、昆虫混入しても安全であるという情報+他の情報が開示に含まれていた場合に他の条件よりも WTP 値が高くなる傾向が示された。自分が食品中の昆虫を発見した場合でも、昆虫の種類や安全性などを説明された場合、“気にせず食べる”や混入部位だけ除去して食べる、という反応が増えた。また、メーカーの対応については、虫の種類の説明だけでは“営業を停止すべき”という反応が多かったが、安全性に対する説明があれば、“特に対応する必要がない”という反応が増えることがわかった。このような調査研究が、今後、食品安全情報を開示する際に、どのような情報を消費者が求めているかを知るために必要になると考えられる。

A 研究目的

食品のリスクに関して発生する社会的問題には、実際に生じた事例そのもの(例えば異物混入)だけではなく、それに派生して生じる、不安・不信などの“人の心”が強く関与する。このような心の問題を明らかにするに当たって、アンケート調査が繰り返されてきたが、実際の消費者の行動を説明できるような知見はなかなか得られない。最近の心理学分野で、実験参加者に2つの写真のうち好きな顔を選ばせ、その後に写真を選んだ理由を尋ねる実験側代になっている。その際、実験参加者が気づかないうちに選んでない方の写真を選んだ写真として提示しても、ほとんどの参加者がそれに気づかず、実際には選んでなかった写真を見ながら、それを選んだ理由を述べることが示されている。つまり、人間が後付け

で自分がとった行動の理由を述べさせても、多くの場合、後づけに作り上げられたものであり、実際の行動の規定要因となった理由とは異なる可能性が高いのである。アンケート調査によって尋ねられる意識調査の結果はほとんどの場合は、こうした後付の理由であると考えられる。こうしたアンケート調査では探りにくいリスクに関する未知なる規定要因を探るために、食品害虫混入をモチーフとして、消費者のリスク理解と態度の変容を探ることを目的とした。

B 研究方法

要因計画

- ・食品の種類（被験者間, 2水準: 生鮮食品（米）or 加工食品（チョコレート））
- ・情報提示法（被験者間, 2水準: 能動的検索

vs. 受動的検索)

- ・情報量 (被験者間, 3水準: 多 (種類+過程+安全性), 中 (2種類), 少 (1種類))
- ・情報量「中」, 「少」条件において, 種類, 過程, 安全性のいずれの情報を提示するかは被験者ごとにランダムに割り当てる。
- ・統制条件として, 情報提示なし条件を設ける。

従属変数

- ・最大支払い意思 (willingness to pay, WTP): 円単位で入力させる。課題の最初にチョコレートあるいは米について WTP を行わせる (WTP1)。次に, 昆虫混入に関する情報提示を行う。その後で, 購入した商品と同じ製品に昆虫混入があった場面, および購入した商品そのものに昆虫混入があった場面を連想させ, その時の商品価値を WTP で判断させる (それぞれ WTP2, WTP3)。WTP1 と WTP2, WTP3 の差を比較することで, 昆虫混入による商品価値の変化を定量的に計測することができる。
- ・害虫混入時の行動・態度: 自分が購入したものと同一商品に昆虫が混入した場合, および自分が購入した商品そのものに昆虫が混入した場合を想定させ, それぞれ以下の設問に回答させる。(1) その商品を食べるか否か (3 択, 1: 食べない, 2: 混入部位だけ除去して食べる, 3: 気にせず食べる), (2) メーカーが取るべき対応 (1: 営業を停止すべき, 2: 同じ生産工程の商品をすべて回収すべき, 3: その商品だけ回収すべき, 4: 対応する必要はない)

調査対象者

- ・インターネット調査を実施
- ・ 25歳~60歳までの日本人男女 1,200

名程度 (全 30 条件: 調査参加者はランダムにいずれかの群にわりふられる。各群女性 20 名, 男性 20 名, 計 40 名)

(1) C 研究結果

WTP 値の分析の結果

WTP に性別、提示法、情報内容が及ぼす影響を検討するため、三要因分散分析を食品別に行なった。その結果、チョコレートでは、ニュース見た後の WTP 値において、情報内容による影響が見られた。有意差がみられた条件は以下のとおりであった。

- 中 (種類, 安全) > 少 (過程)
- 中 (種類, 安全) > 少 (種類)
- 大 (種類, 過程, 安全) > 少 (過程)
- 大 (種類, 過程, 安全) > 少 (種類)
- 少 (安全) > 少 (過程)
- 少 (安全) > 少 (種類)

自分で混入を発見した後の WTP 値には男性のほうが女性よりも高いことがわかった。

コメの場合、ニュース見た後の WTP で以下のような情報内容の要因が有意であった。

- 少 (安全) > 少 (種類)
- 少 (安全) > 中 (種類, 過程)
- 中 (過程, 安全) > 少 (種類)
- 中 (過程, 安全) > 中 (種類, 過程)
- 中 (種類, 安全) > 少 (種類)
- 中 (種類, 安全) > 中 (種類, 過程)

これは、安全に関する情報が含まれていることが重要であること、情報が多く含まれているだけが重要ではないことを示している。

自分で混入を発見した後の WTP でも下記のように、情報内容の要因が有意であった。

少（安全）＞少（種類）

少（安全）＞中（種類，過程）

中（種類，安全）＞少（種類）

中（種類，安全）＞中（種類，過程）

中（種類，安全）＞少（種類）

自己行動に及ぼす効果

χ^2 検定を行なった結果、自分が食品中の昆虫を発見した場合でも、昆虫の種類や安全性などを説明された場合、“気にせず食べる”や混入部位だけ除去して食べる、という反応が有意に増えた。

また、メーカーの対応については、虫の種類の説明だけでは“営業を停止すべき”という反応が多かったが、安全性に対する説明があれば、“特に対応する必要がない”という反応が増えることがわかった。

F 健康危険情報（特にあれば）

なし

G 研究発表（記載の体裁を以下に習う）

1. 論文発表，単行本

- 1) Okamoto M, **Wada Y**, Yamaguchi Y, Kyutoku Y, Clowney L, Singh A, Dan I : Process-specific prefrontal contributions to episodic encoding and retrieval of tastes: a functional NIRS study, *NeuroImage*, (2011) **54(2)**, 1578-1588.

- 2) **和田有史** : 食品の色と質感の知覚心理学, *食品と容器*, (2011) **52(1)**, 34-38.

- 3) Kawabe T, Shirai N, **Wada Y**, Miura K, Kanazawa S, Yamaguchi M K : The audiovisual tau effect in infancy, *PLoS ONE*, (2010) **5(3)**, e9530.
- 4) 河合 崇行・**和田有史** : 味覚・嗅覚, 舘 暲・佐藤 誠・廣瀬 通孝(監), 日本バーチャルリアリティ学会 (編), *バーチャルリアリティ学*, 工業調査会, 東京, (2010) pp.52-59.
- 5) Kimura A, Kuwazawa S, **Wada Y**, Kyutoku Y, Okamoto M, Yamaguchi Y, Masuda T, Dan I : Conjoint Analysis on the Purchase Intent for Traditional Fermented Soy Product (Natto) among Japanese Housewives, *Journal of Food Science*, (2010).
- 6) Kimura A, **Wada Y**, Kamada A, Masuda T, Okamoto M, Goto S, Tsuzuki D, D Cai, Oka T, Dan I : Interactive effects of carbon footprint information and its accessibility on value and subjective qualities of food products, *Appetite*, (2010) **55**, 271-278.
- 7) Kimura A, **Wada Y**, Ohshima K, Yamaguchi Y, Tsuzuki D, Oka T, Dan I : Eating habits in childhood relate to preference for traditional diets among young Japanese, *Food Quality and Preference*, (2010) **21**, 843-848.
- 8) Kimura A, **Wada Y**, J Yang, Otsuka Y, Dan I, Masuda T, Kanazawa S & Yamaguchi M K : Infants' recognition of objects using canonical color, *Journal of Experimental Child Psychology*, (2010) **105**, 256-263.
- 9) 木村敦・**和田有史**・岡隆 : 食味に及ぼす社会心理学的要因, *日本官能評価学会誌*, (2010) **14(2)**, 95-99.
- 10) Masuda T, Kimura A, Goto S, **Wada Y** :

- Hardness perception in visual motion -An experimental investigation in penetrating motion-, *The Japanese Journal of Psychonomic Science*, (2010) **29(1)**, 77-78.
- 11) **Wada Y**, Arce-Loopera C, Masuda T, Kimura A, Dan I, Goto S, Tsuzuki D, Okajima K : Influence of luminance distribution on the appetizingly fresh appearance of cabbage, *Appetite*, (2010) **54**, 363-368.
- 12) **和田有史** : 実験心理学で探る食品の認識 - 視覚から偏見まで -, *使ってみようこの技術 - 新技術研究会講演集 -*, (2010) 97-102
- 13) **和田有史** : 心理学で探る食の感性の成り立ち, *YL*, (2010) **5**, 16-19.
- 14) **和田有史** : 色による外界の認識の初期発達, *日本色彩学会誌*, (2010) **34(2)**, 168-173.
- 15) **和田有史**・熊田孝恒 : ヒューマンエラーと食, *Fooma 技術ジャーナル*, (2010) **6(2)**, 43-49.
- 16) **和田有史**・木村敦 : 多感覚統合と感性, 日本認知心理学会 (監) 三浦佳世 (編), 現代の認知心理学 1 知覚と感性, 北大路書房, 京都, (2010) pp.28-55.
- 17) Kimura A, **Wada Y**, Goto S, Tsuzuki D, Cai D, Oka T & Dan I : Implicit gender-based food stereotypes: semantic priming experiments on young Japanese, *Appetite*, (2009) **52**, 521-524.
- 18) Okamoto M, **Wada Y**, Yamaguchi Y, Kimura A, Dan H, Masuda T, Sighn A, Clowney L & Dan I : Influences of food-name labels on perceived tastes, *Chemical Senses*, (2009) **34(3)**, 187-194.
- 19) **Wada Y**, Shirai N, Otsuka Y, Midorikawa A, Kanazawa S, Dan I, & Yamaguchi M K : Sound Enhances Visual Detection of Illusory Contour in Infants. *Journal of Experimental Child Psychology*, (2009) **102**, 315-322.
- 20) **和田有史** : 食品の認知における視覚の役割, *食品と容器*, (2009) **50(3)**, 174-179.
- 21) **和田有史** : 感覚各論 2.6 複合的感情, 官能評価学会(編), *官能評価士テキスト*, 建帛社, 東京, (2009) pp.40-43.
- 22) **和田有史** : 第 10 章 官能評価の実際 6 複合的感情, 官能評価学会(編), *官能評価士テキスト*, 建帛社, 東京, (2009) pp.208-210.
- 23) **和田有史** : 食品の見た目の効果, 大越ひろ・神宮英夫 (編) *食の官能評価入門*, 光生館, (2009) pp.98-101.

2. 学会発表・講演

- 1) 日比野治雄・熊田孝恒・**和田有史**・永井聖剛・小田浩一・崔庭瑞・庄野徹・八木昭宏 : 技術心理学 : 実学としての実験心理学 2 - 広告・デザインへのアプローチ, 日本心理学会第 74 回大会 (ワークショップ・企画/話題提供者) . (2010)
- 2) 鎌田 賢・朴 ソラ・増田知尋・木村敦・武川直樹・國枝里美・**和田有史** : 口腔内の大きさ知覚 - 指先での触覚と視覚との比較 -, 日本官能評価学会 2010 年度大会. (2010)
- 3) 木村敦・**和田有史**・増田知尋・檀一平太・岡隆 : 食器が日本人青年の食品ジェンダー・ステレオタイプに及ぼす効果, 日本心理学会第 74 回大会. (2010)
- 4) 神山かおる・**和田有史**・湯山恵・小松俊

- 夫：イチゴ保存中の力学特性変化に及ぼすアリルイソチオシアネート製剤（ワサピュア®）の影響，園芸学会平成22年度秋季大会.(2010)
- 5) 増田知尋・木村 敦・後藤祥一・和田有史：貫入運動における視覚的な“かたさ”の知覚，日本官能評価学会2010年度大会.(2010)
- 6) 増田知尋・木村敦・和田有史：貫入運動中の加速度変化が視覚によるかたさ判断に及ぼす影響，日本心理学会第74回大会.(2010)
- 7) 和田有史：実験心理学で探る食の感性，日本人間工学会関東支部大会第40回大会感性・官能部会企画シンポジウム”今こそ食について考える”.(2010)
- 8) 和田有史：おいしさを生み出す心のしくみ，フード・フォーラムつくば・秋の例会.(2010)
- 9) 和田有史：心理学で食の認識を科学する. 荒川区学校給食研究会.(2010)
- 10) 和田有史：実験心理学で探る食品の認識—視覚から偏見まで—，食品新技術研究会第9回例会.(2010)
- 11) 和田有史・熊田孝恒・永井聖剛・日比野治雄・寺澤孝文・須藤智・西崎友規子・辻敬一郎：実学としての実験心理学—産業・商業・日常生活への貢献を目指して—，日本心理学会第73回大会（ワークショップ・企画/話題提供者）.(2010)
- 12) 和田有史・Arce-Lopera C・増田知尋・木村 敦・岡嶋克典：鮮度をみる—輝度分布が鮮度視覚に及ぼす影響—，日本官能評価学会2010年度大会.(2010)
- 13) Arce-Lopera C, Masuda T, Wada Y, Dan I, Kimura A & Okajima K : Visual cues on food freshness perception: How luminance influences the freshness perception of vegetables, European Conference on Visual Perception 2009. (2009)
- 14) Arce-Lopera C, Masuda T, Wada Y, Dan I, Kimura A & Okajima K : Effect of the luminance distribution on the visual freshness of cabbages, 37th meeting of U.S.-Japan Cooperative Program in Natural Resources 2009. (2009)
- 15) Arce-Lopera C, Masuda T, Wada Y, Dan I, Kimura A, Okajima K : Luminance distribution effects on the perceived freshness of strawberries, 日本色彩学会視覚情報基礎研究会2009年度第3回研究発表会.(2009)
- 16) 木村敦・和田有史・増田知尋・後藤祥一・續木大介・檀一平太：ロゴマークの熟知度が色の見えに及ぼす効果，日本基礎心理学会第28回大会.(2009)
- 17) 木村敦・和田有史・鎌田晶子・増田知尋・岡本雅子・續木大介・岡隆・檀一平太：情報検索方法がカーボンフットプリント記載食品の評価に及ぼす影響，日本心理学会第73回大会.(2009)
- 18) 木村敦・和田有史・大島健太郎・檀一平太・岡隆：青年期以前の家庭での食習慣と大学生の伝統食嗜好との関係，日本社会心理学会50回大会.(2009)
- 19) 増田知尋，木村敦，後藤祥一，和田有史：視覚的運動による“やわらかさ”の知覚—貫入運動における検討，日本基礎心理学会第28回大会.(2009)
- 20) 増田知尋・木村敦・檀一平太・和田有史：

- 変形中の加速度変化が事象の知覚に与える影響, 日本心理学会第73回大会.(2009)
- 21) 増田知尋, 和田有史, 岡本雅子, 久徳康史, 木村敦・河合崇行, 檀一平太, 早川文代: 混合味の強度評定における熟練者の優位性, 日本官能評価学会 2009 年度大会.(2009)
- 22) 増田知尋・木村敦・後藤祥一・和田有史: 伸縮運動中の加速度変化による運動印象の変化, 日本視覚学会 2009 年夏季大会.(2009)
- 23) 和田有史: The other side of Food perception, 第16回 社団法人日本心理学会 食発達研究会 (2009)
- 24) Wada Y, Shirai N, Otsuka Y, Kanazawa S& Yamaguchi M K: Visual freezing effect by sound in infants, 10th International Multisensory Research Forum. (2009)
- H 知的財産権の出願・登録状況
なし

III. 研究成果の刊行に関する一覧表

1. 論文発表, 書籍 書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
関澤 純	(単著)	関澤 純	これ、食べたらからだにいいの？食と健康「安全」と「安心」のギャップをうめる	日本生活協同組合連合会出版部	東京	2010	248
関澤 純	安全性の情報源、農薬等一日摂取量調査ほか	小野宏、斎藤行生、浜野弘昭、林裕造	食品安全性辞典	共立出版	東京	2010	41-42, 320,322
鈴木徹、濱田奈保子、パピナ・シリランサン	生鮮魚介類の鮮度測定キット	監修者 山本重夫	農産物・食品検査法の新展開	シーエムシー出版	東京	2010	169-177
和田有史、木村敦	第2章多感覚統合と感性	三浦佳世(編)	現代の認知心理学1知覚と感性	北大路書房	京都	2010	28-55
河合崇行 和田有史	2.6. 味覚・嗅覚	日本バーチャルリアリティ学会編	バーチャルリアリティ学	工業調査会	東京	2010	52-59
和田有史	感覚各論 2.6 複合的感覚	官能評価学会	官能評価士テキスト	建帛社	東京	2009	40-43
和田有史	第10章 官能評価の実際 6 複合的感覚	官能評価学会	官能評価士テキスト	建帛社	東京	2009	208-210
和田有史	食品の見た目の効果	大越ひろ 神宮英夫	食の官能評価入門	光生館	東京	2009	98-101
関澤 純	食品安全と表示	香川 芳子	5訂増補「食品成分表」2009	女子栄養大学出版部	東京	2008	3-5
関澤 純 土田昭司	編集、および項目分担執筆	日本リスク研究会	リスク学用語 小辞典	丸善株式会社	東京	2008	

<u>Sekizawa J</u> , Kojima Y, Mihara K, Yamamoto H, Ohta N, Harada A, Takeda E, Miyairi S, Nakamura Y, Imamura Y, Ikeuchi T, Yamada N.	Urine concentrations of indirubin in rats and humans and its possible interaction with other aryl-hydrocarbon receptor ligands	M.Morita	Persistent Organic Pollutants (POPs) Research in Asia		Tokyo	2008	298-301
<u>今村知明</u>	食品不信社会		中央法規出版	中央法規	東京	2008	

論文発表

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
<u>関澤 純</u> 北村忠夫 森田満樹 中村由美子 <u>濱田奈保子</u> <u>前田恭伸</u> 鹿島日布美	対象別の適切な食品安全情報の教材と指導プログラムの開発	日本リスク研究学会第23回研究発表会論文集	2010年 11月	77-82	2010
<u>関澤 純</u>	これからの食品安全リスクコミュニケーション	まちと暮らし研究	11	57-63	2010
<u>前田恭伸</u> <u>関澤 純</u> 柴田健一	Adobe Flash を用いた子ども向け食品安全ゲームの開発	日本リスク研究学会第23回研究発表会論文集	2010年 11月	83-87	2010
<u>前田恭伸</u>	リスクマネジメントはなぜ難しいのか	日本リスク研究学会誌	20(3)	197-272	2010
<u>前田恭伸</u>	リスクマネジメントはなぜ難しいのか	日本リスク研究学会第23回シンポジウム	2010年 6月		2010
森田満樹 <u>関澤 純</u>	急増する食品の自主回収と食のリスクにかかわる現状と課題	日本リスク研究学会第23回研究発表会論文集	2010年 11月	99-105	2010
<u>Sekizawa J</u> Tsuchida S	Resolving significant gaps between food safety and public confidence in the safety of food in Japan	Risk Analysis	投稿中		

Srirangsan P, Hamada N , Kawai K, Watanabe M and Suzuki T	Improvement of fish freshness determination method by the application of amorphous	Journal of Agricultural and Food Chemistry			In press
Okamoto M, Wada Y , Yamaguchi Y, Yasugishi Kyutoku Y, L Clowney, A Singh, Dan I	Process-specific prefrontal contributions to episodic encoding and retrieval of tastes: a functional NIRS study	NeuroImage	54(2)	1578-1588	2010
Kawabe T, Shirai N, Wada Y , Miura K, Kanazawa S, Yamaguchi M K	The audiovisual tau effect in infancy	PLoS ONE	5(3)	e9530	2010
Kimura A, Wada Y , Ohshima K, Yamaguchi Y, Tsuzuki D, Oka T, Dan I	Eating habits in childhood related to preference for traditional diets among young Japanese	Food Quality and Preference	21	843-848	2010
Kimura A, Wada Y , Kamada A, Masuda T, Okamoto M, Goto S, Tsuzuki D, D Cai, Oka T, Dan I,	Interactive effects of carbon footprint information and its accessibility on value and subjective quality of food products	Appetite	55,	271-278	2010
Kimura A, Wada Y , J Yang, Otsuka Y, Dan I, Masuda T, Kanazawa S, Yamaguchi M K,	Infants' recognition of objects using canonical color	Journal of Experimental Child Psychology	52	521-524	2010
Kimura A, Kanazawa S, Wada Y , Kyutoku Y, Okamoto M, Yamaguchi Y, Masuda T, Dan I	Conjoint Analysis on the Purchase Intent for Traditional Fermented Soy Product (Natto) among Japanese Housewives	Journal of Food Science and Technology			In press
Masuda T, Kimura A, Goto S, Wada Y	Hardness perception in visual motion - An experimental investigation in penetrating motion	Japanese Journal of Psychonomic Science	29(1)	77-78	2010
Wada Y , C Arce-Lopera, Masuda T, Kimura A, Dan I, Goto S, Tsuzuki D, Okajima K	Influence of luminance distribution on the appetizingly fresh appearance of cabbage	Appetite	54	363-368	2010

木村敦・和田有史・岡隆	食味に及ぼす社会心理学的要因	日本官能評価学会誌	14 (2)	95-99	2010
和田有史	心理学で探る食の感性の成り立ち	YL	5,	16-19	2010
和田有史	実験心理学で探る食品の認識 －視覚から偏見まで－,	使ってみようこの技術 －新技術研究会講演集－		97-102	2010
和田有史	色による外界の認識の初期発達	日本色彩学会誌,	34 (2)	168-173	2010
和田有史 熊田孝恒	ヒューマンエラーと食	Fooda技術ジャーナル	6(2)	43-49	2010
Wada Y. Lopera CA. Masuda T. Kimura A. et al.	Influence of luminance distribution on the appetizingly fresh appearance of cabbage	Appetite	in press		
Kimura A. Wada Y. Yang J. Otsuka Y. et al.	Infants recognition of objects using canonical color	Journal of Experimental Child Psychology.	in press		
関澤 純	食品のリスク評価と安全への信頼	日本リスク研究学会誌	19 (1)	21-24	2009
関澤 純	食の安全と安心のギャップにどう折り合いをつけるか	FFIジャーナル	214 (4)	467-470	2009
関澤 純	食品におけるリスクを考える－安全と安心のギャップはなぜ起きる	環境技術	38 (8)	17-23	2009
関澤 純	食品安全の新たなガバナンスのあり方を探る	日本リスク研究学会誌	19 (3)	1-2	2009
関澤 純 濱田奈保子 蒲生恵美 前田恭伸	食の安全と安心のギャップの分析と解決を目指して	日本リスク研究学会第22回研究発表会論文集	2009年 11月	25-30	2009
濱田奈保子 渡辺尚彦 関澤 純	ケースメソッドを用いた食品安全教育の実践と課題	日本リスク研究学会第22回研究発表会論文集	2009年 11月	13-17	2009
Sekizawa J.	Dilemma and conciliation between safety and reassurance on food in Japan	Asian Conference on Risk Assessment and Management	2009年 5月	66	2009

<u>Sekizawa J.</u> —	Advancement and lessons learned on food safety in Japan	Taiwan Chapter of the Society for Risk Analysis 2010 Meeting	2010年 1月	1	2009
<u>Sekizawa J.</u> <u>Tsuchida S.</u>	Cross cultural/dietary study on risk/benefit perception of main food products between Japan and western countries	Society for Risk Analysis 2009 Annual Meeting	2009年 12月	176	2009
<u>土田昭司</u>	リスク認知・判断についての社会心理学的一考察：消費行動への適用も視野に入れて	関西大学経済・政治研究所セミナー一年報	2008	129-138	2009
<u>蒲生恵美</u>	中国冷凍ギョーザTV初期報道に関する一考察	NACS第20回消費者問題研究成果発表会論文集	—	39-47	2009
<u>今村知明</u>	健康危機関連事件における本来のリスクを上回ると思われる過剰な社会反応の定量的把握とその分析	厚生の指標	56 (15)	42-47	2009
<u>Kimura A.</u> <u>Wada Y.</u> <u>Goto S.</u> <u>Tsuzuki D.</u> et al.	Implicit gender-based food stereotypes: semantic priming experiments on young Japanese	Appetite.	52	521-524	2009
<u>和田有史</u>	食品の認知における視覚の役割	食品と容器	50 (3)	174-179	2009
<u>Okamoto M.</u> <u>Wada Y.</u> <u>Yamaguchi Y.</u> <u>Kimura A.</u> et al.	Influences of food-name labels on perceived tastes	Chemical Senses	34 (3)	187-194	2009
<u>Wada Y.</u> <u>Shirai N.</u> <u>Otsuka Y.</u> <u>Midorikawa A.</u> et al.	Sound enhances visual detection of illusory contour in infants	Journal of Experimental Child Psychology	102	315-322	2009
<u>関澤 純</u>	リスクコミュニケーションの検証と展望	食品衛生研究	58 (11)	7-15	2008
<u>関澤 純</u> 、 <u>土田 昭司</u> 、 <u>辻川典文</u> 、 <u>小池 芙美代</u> 、 <u>蒲生 恵美</u> 、 <u>廣瀬 弥生</u>	食品安全の情報依拠・信頼傾向の分析と適切な教材開発による信頼と理解改善の試み	日本リスク研究学会第21回研究発表会論文集	21	385-390	2008

関澤 純, 田中 麻理, 上野伸子	食品安全の効果的な リスクコミュニケーションに向けた質問 回答サービス	日本リスク研究学会誌	18 (1)	105-112	2008
<u>Sekizawa J</u>	Low Dose Effects of Bisphenol A : A Serious Threat to Human Health?	Journal of Toxicological Sciences.	33 (4)	389-403	2008
Peters,H.P., Brossard, D., Cheveigne, S., Dunwoody, S., Kallfass, M., Miller, S., & <u>Tsuchida, S.</u>	Interactions with the Mass Media	Science	321	204-205	2008
Peters,H.P., Brossard, D., Cheveigne, S., Dunwoody, S., Kallfass, M., Miller, S., & <u>Tsuchida, S.</u>	Science-Media Interface: It's Time to Reconsider	Science Communications	30 (2)	266-276	2008
今村知明、御輿 久美子、尾花尚哉、山口健太郎、濱田美来	健康危機関連事件が 社会に与える影響の 定量化と予測手法に係る研究	医療情報学	28 (Suppl.)	675-678	2008

